

# 玉野市立山田小学校

児童数 105名 ・学級数 7 学級 ・教職員数 14名（平成27年1月31日現在）

## ○取組実践のキーワード

学力向上を意識した

○リズムある学校生活    ○保護者、地域との連携    ○教師の力量アップ

## ○標題（研究主題）

自分の考えをもち、生き生きと伝え合うことのできる子どもの育成

## ○取組を始めた経緯

- ・長年に亘る学力の低迷（全国平均との大きな開き）
- ・家庭学習の時間の減少（                      //                      ）
- ・学校におまかせ状態の保護者の意識
- ・教師とのやりとりを中心とした一斉指導の日常化
- ・やってみようという学習意欲の少なさ
- ・宿題等の提出物の不揃い
- ・学校行事の実施に多くの時間を費やす指導

以上のような、児童・保護者・教師・教育活動の課題を、少しでも改善できるようにするために、平成25年9月より順次以下の取り組みを始めた。

## ○取組の実施体制

- ・授業研究3部会による（国語科・体育科・心の健康）授業研究推進
- ・学力向上担当による、放課後補充学習
- ・地域連携担当による、学校支援ボランティアの支援体制の確立
- ・学年部・担任による、家庭での暮らし・学習の見直し
- ・山田中学校区の3校連携による取組（長期休業中の補充学習支援）
- ・PTAとの連携による取組（参観日の在り方・ノーメディアデー）



## ○学力向上に向けた具体的な取組

充実した学習時間を確保するために

- ・1・3・5時間目のスタートをチャイムとともに（特に1のスタートを）
- ・ノーチャイム・モジュール制による弾力的な学習（発達段階・学習内容に応じた学習時間の設定）
- ・業間時間35分の設定（個別指導・宿題の確実な実施）
- ・放課後・長期休業中の補充学習（月スタ…4～6年全員、水スタ…4～6年希望者、火スタ…1・2年希望者）
- ・学校行事の内容見直しと事前指導時数の縮減（フェスティバル・運動会・音楽発表会・卒業式）

保護者・地域との連携をより確かなものにするために

- ・学校支援ボランティアによる様々な支援（ミシン裁縫調理実習、九九聞き取り、放課後補充学習 等）
- ・新しい通知表（児童の自己評価、算体の単元別評価、保護者からのメッセージ等の導入）
- ・4月の学級づくりのスタートを大切にするPTAとの連携
- ・いつでも参観日の設定
- ・子どものことを共に考える個人懇談・家庭訪問の在り方

教師の児童理解力・学級経営力・授業力アップのために

- ・外部講師を招聘しての授業づくり研究
- ・独自の学力調査・人間関係力調査の実施と活用
- ・学級経営力向上のための研修会への参加



## ○現在までの取組の成果と課題

### 1 成果

昨年9月より1・3・5時間目の授業のスタートをチャイムとともに始めるように心掛けるなど、「授業を大切にする」という当たり前の取組を全教職員・全児童で再確認し、継続してきている。特に、小学校卒業を迎える6年生では、3学期の総合的な学習を見直したり、卒業式の全体指導を半分の時間で仕上げたり、冬休みに補充学習を実施したりするなどして、落ち着いて学習に取り組める体制づくりを大切にしてきた。



平成25年4月の全国調査で、平均を大きく下回っていた6年生が、一年後（平成26年4月県調査）には平均を上回るまで伸びてきたのは、その積み重ねの成果だと思われる。

平成26年度からは新たな生活時程による学校生活が始まり、児童もその生活に慣れてきた。長い業間時間の一部を使って、できていなかった宿題をしたり、授業でできなかった課題や作業を完成させたりするなど、一つ一つの取組をきちんとやるのが当たり前になってきている。

保護者・地域との連携では、個人懇談の回数を増やして三者懇談を取り入れたり、資料をもとに家庭訪問したり、通知表にメッセージを書いてもらったりと、保護者とともに児童の今とこれからの考えることができるようになってきた。「学力向上説明会」を開催しても以前より多くの保護者が参加してくれるようになった。また、学校支援ボランティアの方々が、授業支援や補充学習支援に積極的にかかわってくださるようになり、児童一人一人が安全に確かな学びをすることができるようになってきている。

教師の授業力を高めるために、大学の先生に授業づくりからかかわっていただいた「授業づくり研修会」を年9回行うことができ、普段の国語や体育の授業が、児童がより生き生きと活動するものになりつつある。人とのかかわり方を学ぶ授業実践にも取り組み、学ぶ場である学級がよりお互いを大切にしたものになりつつあり、安心して学べる土台づくりの確かな一歩となった。

### 2 課題

新たな生活時程の意味を、児童も教師も再確認して継続した取り組みを行うことが大切になる。同様に保護者・地域との連携、教師の力量アップのための研修など、今年度行ってきた前向きな取組を継続して行うことが、学びを大切にする学校づくりへの大きな力になると考える。

学力補充のために放課後学習などを行ってきたが、その課題でさえできず積み残してしまう児童がいる。このクラス、この子に合った課題・取組を考え、できるようになった喜びを実感できるような補充学習の在り方が求められる。

## ○取組の継続・発展の要因

- ・今までやってきた学校生活（生活時程・学校行事）や学習の「当たり前」の見直しと充実
- ・保護者との連携の見直し
- ・子どもの的確な実態把握
- ・教育委員会と連携した学力向上研修の実施による、教員の意識向上と授業改善への取組
- ・地域の力を活用した学校支援

## ○管理職・中核教員等のアクション

- ・毎月の職員会議で、学力向上に向けての取組について指示（校長）
- ・学力学習状況調査の分析と学力向上プランの作成（校長・教頭・学力向上担当）
- ・学力向上に向けての校内研修の企画運営（校長・学力向上担当・研究主任）

